

大阪城

2021
6/28
(月)
14/77
号

全巻
西成分會

244
6647-
4947

ヤナズカにコロナウイルスがスッぽすぽいな！と思う。
日本の国家権力のさげすみを開いて見せてくれている。オリービックだっじようぶか？と天白王と天白王家が心配している……と宮内庁の長官が言ったら、すげえま政府・世官首相は、それは宮内庁長官の意見で、天白王のものはない、とさめつけ、天白王発言をな！もめとしてしまった。
明治、明治天皇以降、敗戦までの1945年昭和20年/21年まではありえなかつた光景を見ることになった。
戦後憲法の下でこそ存在できる、日本の
国家権力や権威の分裂、裂け目があることを、全世界に示した事件になる。明治の前幕末、孝明天皇の時代にはよくあった話ではある。薩摩の大久保利通あたりは、孝明天皇が薩摩や自分には味方しない意見を言った時には、公然とあんな天皇認めない！と公言していたので、世官首相も天皇の問題については、大久保並みに腹がすわってきたくもな。ええ、たろうか。しかし、天皇にしたら、開会式のあいさつはさせらゆるし、もし途中でゆきづまったり世界中に自分なり天皇が敵対面に立つことになると考えよ、たろうか。心配なことだろう。コロナウイルスは、こんな舞臺をつくっている存在である。

